

会 議 録

会議名	令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会第2回全体会
日 時	令和3年11月29日（水）午前10時から正午まで
場 所	みよし市役所3階 研修室1～3
出席者（敬称略）	別紙参照
欠席者（敬称略）	就労支援部会部会長
傍聴の有無	2名

発 言 要 旨

第1 あいさつ

おはようございます。本日はみよし市自立支援協議会第2回全体会開催にあたり、お忙しい中多数お集まりいただき、ありがとうございます。各部会から、進捗状況の報告等があります。多数のご意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。（柴田会長）

第2 協議事項

1 令和3年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

(1-1) 運営会議の事業報告について、事務局福祉課立石から説明。
上半期報告書について、わらび深田氏より説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
手をつなぐ親の会 岸野氏	上半期報告書の6（6）の社会参加について。他の項目に比べて緊急性は低いが、余暇も大切。参加の促進とあるが、促進の方向、手立てはどういうものがあるのか教えてほしい。サンライブの利用料が無料になったり、習い事の送迎に移動支援が使えるようになったりする等、仕組みの部分で何かできる手立てがあるのではないか。検討の課題として持っておいていただけるとありがたい。
わらび 深田氏	スポーツ、文化、社会参加の部分は個別支援課題の聞き取りの中で課題としてあがってきていない。利用されている方で、そういった部分の課題として挙げていただくと、取り上げていける。見えてこない課題もあるので、親の会や相談員との面談で入れていただけるとありがたい。

(1-2) 人材育成検討チームの事業報告について、事務局『しおみの丘』秋田氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
わらび 熊谷氏	積極的に研修していただき、有難い。事業所から企画側と、参加者側のどちらも参加した。みよし市全体で何かを作っていくということを30代でやっていたのが、心強いと思う。内容としては、いい感想がでているのでよいかと思う。現状に即したものを検討してもらえるとよい。

(1-3) 暮らしの場検討チームの事業報告について、事務局『相談支援事業所わらび』深田氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等

<p>しおみの丘 松平氏</p>	<p>最近、事業所で利用者の暮らしの場について、考えるようになった。利用者の平均年齢は40歳くらい、保護者の平均年齢は65歳を超える。法人で40名の方に利用者アンケートをとった。将来の心配等あって、グループホームなどの体験利用希望は40名中30名、75%だった。地域全体のことを考えると、本人の生活力を高めるとともに、仕組みを作れるとよい。</p> <p>現在利用者の方で2名の一人暮らしの方がいるが、思った以上に大変である。今は法人職員が業務外で支えている。そういう方を支える仕組みができるとうい。</p>
----------------------	--

(2) 児童部会の事業報告について、部会長『相談支援OKサポート』戸村氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>こども発達センター 神谷氏</p>	<p>すごく積極的な取り組みで前にすすんでいる。</p> <p>ふたば、のびのび教室の基準の確認。1歳6か月健診の保健師の基準の確認のことかと思う。どこでもそうだが、一人のスペシャリストがいるのではなく、誰でも一定の基準で、気になることを発見できるという組織全体のレベルアップが大切。一方で基準を作るのはすごく難しい。スクリーニングの基準と保護者の思いと、その間をどうやってとっていくのかということが大切。柔軟な判断が必要になる。基準ができたら見せてほしい。</p> <p>みよし市だけではなく、どこの市町でも同じだが、働く保護者が増えている。これまで療育で専門的な発達支援を実施してきた。これからは保育園の乳児クラスで療育も考えていく時代。そこで働く保育園、幼稚園の先生に発達支援、障がい児支援の知識が必要になってくる。安心して働きながら、子どもを育てていくことができる仕組みが必要になる。</p>
<p>jsk 株式会社 川口氏</p>	<p>先日ペアレントプログラムを行った。従業員みんなで子どもやその家庭を支援していけるとよいと思った。</p>
<p>みよし市教育委員会 菅田氏</p>	<p>つながりシートは5年以上経過し、園にも学校にも浸透してきている。園から「学校でしっかり活用されているのか」という質問があった。学校に周知する必要を感じたので、働きかけていきたい。</p>

(3) 就労支援部会の事業報告について、事務局『はたらくサポートセンター』小西氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>豊田公共職業安定所 鈴木氏</p>	<p>目標2について。セミナーの開催はハローワークでも必要な位置づけである。障害者雇用が、不足している会社も多い。みよし市では、20社程度雇用不足しているのではないかと。セミナーを通じて、障害者雇用を考えるようになることが大事。その中で企業が理解してくれれば、障害者の自立につながると思う。</p>
<p>豊田公共職業安定所 鈴木氏</p>	<p>4-4部会の在り方検討について。主な意見、質問については、完結しているのか。</p>
<p>就労支援部会事務局 小西氏</p>	<p>完結はしていない。WGで課題を細かくわけ、来年度取り組む課題とする。</p>
<p>豊田公共職業安定所 鈴木氏</p>	<p>資料全体のことについて。事前に目を通してはいるが、みなさん資料を探すのが大変かと思う。通し番号をつける等のことを検討してもらえればと思う。</p>

西三河北部障害者就業・生活支援センター 西村氏	利用者へのアプローチの観点から話す。取り組みが進んでいると感じる。実際、1名の学生が市役所で職場体験をしている。学生の就労支援について考えていかなければいけないと思っているので、体験できる場所があるのは心強いこと。中学生の実態調査は結果が楽しみである。 高齢者の就労支援も難しくなっている。認知症、高次脳機能障害の方の就職支援が難しい。B型、就労移行等の利用もあるが、自分が障がいをもったことの受け入れが難しく進まない。そのあたりを、福祉の観点から一緒に考えていけたらと思っている。
三好特別支援学校 井上氏	在学中の進路支援について。支援機関がたくさんできているのはありがたいと思っているが、情報のやり取りについては課題があるかと思う。保護者から話を聞いて進んでいくことが多く、知らなかった話がふと耳に入ることもある。就労支援を行っていくうえで、支援者が共通意識で動いていけるとよい。
会長 柴田氏	支援機関の情報の共有ということか。
三好特別支援学校 井上氏	はい。
(4) 精神保健福祉部会の事業報告について、部会長『みよしはたらく協議会』兼重氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
衣浦東部保健所 中根氏	保健所はひきこもり支援連絡会にも参加させてもらっている。当事者とご家族に寄り添った支援を一緒に考えていけたらと思う。今後もよろしくお願いします。
精神障がい者家族会 畠中氏	精神障害のある方の居場所を作ってもらえる。そういう場所ができるだけで親として、安心感がある。家族会の定例会もそこで行う予定。親にとっても子供にとってもよいと思っている。
(5) 医療的ケアさぽーと部会の事業報告について、部会長『キッズラバルカ』川北氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
相談支援 OK サポート 戸村氏	コーディネーターとしての役割と、相談員としての役割の住み分けをしっかりとしていかなければと思っている。大人対象の訪問看護事業所が、子どもも受け入れると言ってくれた。
みよし市民病院 阿部氏	個人的な意見ではありますが、コーディネーターワーキンググループで、訪問看護等からの研修や話を聞く機会等があれば、ソフト面を補う意味でも病院も参加できると、職員理解につながるかと思う。
(6) 副会長阪田氏より	
副会長 阪田氏	ハローワークの方の資料のご指摘はその通りかと思うので検討する。 障がいのある方の協議する場がここにできて、部会も増えている。課題は多岐にわたっている。事務局や相談支援専門員は大変だと思う。心から敬意を払いたい。 自分の専門のところの話だけでなく、関係が薄いかもしれないが、全ての内容に興味をもち、課題を共有してもらえるとよい。

2 地域生活支援拠点等の整備について	
ヒアリング報告書、取り組み内容について福祉課立石より説明	
構成員名	意見（質問・回答）等
副会長 阪田氏	地域生活支援拠点の整備については国がうたっている。みよしもこれを重点課題として取り扱っている。先日の愛知県の相談支援のアドバイザー会議の協議内容もこれだった。基準は難しく、時代に伴って変わってくる。地域診断表はみよしの福祉の状況をより多くの人に知ってもらう道具として使ってもらえればよい。ヒアリングは意味があって実施した。拠点についての思い、見方はそれぞれ。地域診断表はコミュニケーションの道具として使う。それぞれの意見をいただいて、視点を調整するとよい。
会長 柴田氏	ロゴマークを使って広めてもらえばよい。 評価にあたり、ヒアリングの時に現在のレベルを上げるのにどうするとよいか、示してもらえるとよいと話した。資料7がありがたい。レベルを上げるにはどうしたらよいか。できないことについてレベルをあげることも大切だが、できることを一つずつやっていくことも必要ではないか。少しずつレベルをあげていくことが必要か。
しおみの丘 松平氏	地域に対して、常にアンテナをはって、意識することが大事。地域生活拠点について法人職員に聞いても大半が答えられない。この街について考える、意識をもって知恵を出し合う、そういう場所も大事かと思う。
社会福祉協議会 福岡氏	拠点を理解するのに時間がかかった。報告書は納得ができた。 いろいろな事業で関わらせてもらっているが、拠点事業で社会福祉協議会が努力してレベルアップできることもたくさんあるかと思うので、やれるところからやっていけたらと思う。
みよしはたらく協議会 鶴田氏	制度や、場所を作れば終わりではない。できた瞬間は満足するが、次の課題がでてくる。当事者の方だけでなく、みんなに夢、希望を与えることも大切。要求に答えるばかりではなくて、取り組む姿、姿勢を伝えることも大切かと思う。
豊田特別支援学校 大須賀氏	到達点がどこにあるのか。それぞれの場の人々が着実に進めていることに感謝している。学校も一緒に取り組みたい。 レベルアップのために、見えてきていない課題、利用者からの声を吸い上げやすくする。埋もれていく課題を表にして、対策、協力につなげていくことができたらと思う。
身体障害者福祉協議会 高以良氏	会員が高齢化で減るばかりである。以前は何百人といたのが、現在は30人くらい。個人情報関係で、情報を入手できず入ってもらえるようお願いできない。広報にも載せているが、会のことを知らない人が多い。 残っている会員で頑張っているが、そういう問題も考えていただきたい。
副会長 阪田氏	啓発についても教えてもらえればご協力できるか。
福祉課 立石	ロゴマークについて、どのように周知したらよいのか検討していなかった。運営会議で協議していき、報告をさせてもらう。

3 その他

次回の自立支援協議会全体会は3月23日（水）10時から。詳細については後日。

－閉会－

作成	福祉課	児島 裕子	R3.11.30
----	-----	-------	----------